

1

説明的文章

◆指導ページ P.2～5◆

【指導のポイント】

- ★指示語の指す内容を的確に捉えさせる。
- ★文章全体の中での段落の働きを捉えさせる。
- ★筆者の意見を読み取らせる。

ページ 問題番号	演習問題	指導内容・留意事項など
(P5)	(1)	抜き出された文の文頭「このことに気がつき」に注目させる。「このこと」がどのようなことなのかを、抜き出された文の内容を確認させながら捉えさせる。
(2)	(2)	「それ」という指示語は、いま話題にしたばかりの事物などを指すときに使われることが多いことを示し、「それ」より前に書かれている部分に注目させる。
(3)	(3)	②段落最初の「ところが」に注目させる。感情の生じる理由が明らかである前段落の内容に対して、よくわからないイライラの感情について述べている。
(4)	(4)	夫人が気にしていることは何なのかを理解させる。直前の「この男性は話のテンポが少し遅いことは事実である」を、字数に合うようにまとめさせる。
(5)	(5)	21行目に「イライラ」というものは……、24行目に「イライラは……」とあるように、⑤段落目でイライラについての分析がなされていることに注目させる。その中で24～26行目「イライラは、……ことが多いのである」の箇所へ答えがあることを理解させる。
(6)	(6)	前後で周囲の人がイライラする原因について述べている。 ある人が自分について 見とおしを持たず + 本人が悠然として ← 周囲がイライラしてくる = 「『急がば回れ』の解決法」
(7)	(7)	38行目以降「この場合でも、……」によって問題が解決してゆくようである。「この場合でも、……」によって問題が解決してゆくようである」の中から解決方法に対する部分を、設問の指示に従いながらまとめさせる。

重要語句

○呼応⇨一つの行動にこたえて他方でも動きが起きること。
○「急がば回れ」⇨早く着こうと思うなら、危険な近道より遠くても安全確実な方法をとったほうが早く目的を達することができるという意味のことわざ。

2

古典

◆指導ページ P.6～9◆

【指導のポイント】

- ★歴史的かなづかいの直し方をつかませる。
- ★省略された主語や、会話を的確に捉えさせる。
- ★返り点や送りがなのきまりを覚えさせる。

ページ 問題番号	演習問題	指導内容・留意事項など
(P9)	(1)	「整理しよう」①②⑥で、かなづかいの直し方を確認させる。「くちをし」の意味を確認させる。漢字では「口惜し」となるため、漢字で意味を理解させるのも理解の一助と思われる。「くちをし」の原因は、「をらんとする」のに「はづれた」ことなので、枝は取っていないことに注意させる。
(2)	(2)	「蓬の」の「の」が主語を示していることを理解させる。語頭以外の「ふ」は「う」に、「さふ」は「さう」↓「そう」と直す。
(3)	(3)	引用を表す「と」に注目させる。
(4)	(4)	文中の登場人物の名前を挙げさせ、何人いるのかを把握させるとよい。同一人物でも相手からの見方によって立場や表現が変わることを理解させる。
(5)	(5)	まず「おどろきたる」のは客人であることを確認させる。傍線部より後の父との会話の中で、「然るべき天骨」とあるので、文末の(注)もしっかり読ませて意味を確認させる。
(6)	(6)	古文を読むときは、省略された主語を補いながら読むように指導する。
(7)	(7)	「たまふ」「候ふ」から、尊敬の表現を読み取らせる。
(8)	(8)	他の選択肢のことわざの意味も確認させておくことよい。
(1)	(1)	客人ではなくて筆者の感想を答えさせることに注意。筆者のいいたいことは、最後の一文から読み取れる。
(2)	(2)	書き下し文を確認させ、漢文に読む順番の番号を書かせるなどして整理させるとよい。レ点は下から一字上に返る。
(3)	(3)	A 「能」は「できる」という意味で使われている。現代語の「可能」という語などで意味を覚えさせて、漢文に親しみを持つってもらう。
(4)	(4)	B 文の最後で、犬が返事を持って帰ってきたことから判断できる。
(5)	(5)	「之」は直前部分から、機が竹筒の中に入れたものであるとわかる。この後、犬の首にくくりつけて家に行かせることから、機の手紙⇨「書」であることを理解させる。

前問とあわせて理解させる。
機が犬に言った言葉や「報を得て」から捉えさせる。

3

文学的文章

【指導のポイント】

- ★場面の様子を的確に捉えさせる。
- ★文学的な表現に注目させ、文章理解を深めさせる。
- ★人物の心情を読み取らせる。

◆指導ページ P.10～13◆

問題番号	ページ	演習問題	指導内容・留意事項など
(1)	(P12)	(1)	雪の降り方については、4行目の「終に猛吹雪がやって来た」にも書かれているが「具体的」には、10行目の「視界を遮る重い降り方」に書かれている。「一文」の「初めの五字」という設問の指示を見落とさないように確認させる。
(2)	(P13)	(2)	「同調」の意味を、辞書などで調べさせて確認させるとよい。空欄の前後の表現に注目させる。また、発言の動作主をはっきりさせながら読んでいくようにするとわかりやすくなる。
(3)	(P13)	(3)	A 学校が休めることと、直前の「お母さん、嬉しいよう。」から、光子の嬉しさが表れているウが正答。 B 「飢え死にしちゃう」から、雪のせいで食料が十分でないことを読み取らせる。
(4)	(P13)	(4)	C 「缶詰もあるし……タマネギもあるんだもの」と食品の名前を挙げていて、さらに直後に「それは村の人からもらったもの」とあることに注目させる。 D 負け惜しみのように母が言うのだから、母は「この厳しい環境だとゆべしがおいしくなる」ということを言いたいのである。「冒険」とは、日常とかけ離れた状況の中で、危険に満ちた体験の中にあえて身を置くことである。よってこわいことをするわくわくした気持ちというウが適している。
(5)	(P13)	(5)	16行目以降「積雪は深いところでは二メートルを越え……」で深い雪についての描写がある。この後の「お母さんが雪の中を半分泳ぐようにして」に、人がこの深い雪の中を進んでいく様子が示されている。
(6)	(P13)	(6)	40行目「雪は閉ざされた幸福の味を濃縮した」から、光子は幸福を感じていることを理解させる。また41行目「誰一人侵入者のない」や43行目「お母さんと二人だけ生き残った」から、ウが最適である。

重要語句

○天下晴れて〓大つびらに、世間に気兼ねなく。
○備蓄〓将来や万一の場合にそなえてたくわえておくこと。また、そのたくわえ。

4

韻文・実用文

【指導のポイント】

- ★詩歌の表現形式を覚えさせる。
- ★表現技法とその効果を理解させる。
- ★作者の伝えたいことを捉えながら、詩歌を鑑賞させる。

◆指導ページ P.14～17◆

問題番号	ページ	演習問題	指導内容・留意事項など
(1)	(P16)	(1)	「整理しよう」②を見ながら、実際の表現(問題文)の中でどのように使われているかを理解させる。 擬音語と擬態語について整理させる。
(2)	(P16)	(2)	○擬音語↓事物の音や人・動物の声などを表す語。 ○擬態語↓物事の状態や様子などを感覚的に音声化して表現する語。
(3)	(P17)	(3)	「五感」という概念を説明し、選択肢にはない「味覚」についても説明をするとよい。 A 聴覚については「音」「声」などの表現で表されることが多い。 B 嗅覚については「におい」「かおり」などの表現で表されることが多い。
(1)	(P17)	(1)	まずそれぞれの短歌の内容を確認させ、意味の切れ目を捉えさせる。 「コスモス」と体言で終わっていることに注目させる。正答以外の選択肢についても、意味を確認させておく。
(2)	(P17)	(2)	鑑賞文の最後の内容を捉えさせる。「桜の花」がさびしい関係というものを投影しているため、この「桜の花」を抜かして読んでしまうと意味がないと筆者は言っている。 前問にも関連してくる。
(3)	(P17)	(3)	「桜の花」という句を抜かして読んだ = 名歌としての生命をほとんど失ってしまう = 恐ろしい
(4)	(P17)	(4)	「ゆかりのある」という表現もあるが、「形容詞」という指示があるため不適。問題の指示を見落とさないようにさせる。
(1)	(P17)	(1)	A 「なつかし」と終止形になっていることから二句切れであることがわかる。
(2)	(P17)	(2)	B 直後の「聴きにゆく」に注目させ、何を聴きにいくのかを捉えさせる。「一語」で抜き出すことに注意させる。
(3)	(P17)	(3)	敬意を示す表現には、尊敬語と謙譲語があることを理解させる。指導してもらおう生徒側を主体にして書く場合は、謙譲表現を用いる。日常会話などでも誤って用いられていることがあるため、改めて確認させる。